

# Japonismes 2018

---

**「ジャポニスム 2018 : 響きあう魂」 開催記者発表会**

**報道用資料**

本事業、取材に関するお問い合わせ先

**(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内**

**担当 : 小川美紀**

住所 : 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL : 03-6894-3201 Email : japonismes2018@ssu.co.jp

## ジャポニスム 2018 響きあう魂

ゴッホやモネの芸術にも多大な影響を与えた「ジャポニスム」。

この現象は、19 世紀のフランスで浮世絵に代表される

日本文化が紹介されたことから一気に広まりました。

日仏友好 160 周年にあたる 2018 年、時を越えて、現代日本が創造するジャポニスムは、

新たな驚きとともに世界をふたたび魅了することでしょう。

## 目次

- ジャポニスム 2018 とは .....P3
- 会場地図 ..... P4
- シンボルマークについて ..... P5
- ジャポニスム 2018 公式企画一覧 ..... P6~7
- ジャポニスム 2018 参加企画について ..... P8
- ジャポニスム 2018 公式企画詳細 .....P9~68

## ● ジャポニスム 2018 とは

---

### 開催概要

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」では、パリ市内を中心に 20 を超える会場で、展覧会や舞台公演に加えて、さまざまな文化芸術を約 8 ヶ月間にわたって紹介していきます。

古くは日本文化の原点とも言うべき縄文から伊藤若冲、琳派、そして最新のメディア・アート、アニメ、マンガまで、さらには歌舞伎から現代演劇や初音ミクまで、日本文化の多様性に富んだ魅力を紹介します。同時に、食や祭りなど日本人の日常生活に根ざした文化をテーマにした交流イベントも開催します。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本各地の魅力をパリに向け、またパリを通して世界に向けて発信します。

さらに日本国内における広報活動を通じて、日本文化を再発見できる機会もつくっていきます。

### 背景

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」は、2016年5月に安倍総理大臣とフランスのオランド大統領（当時）の合意により、日本文化の素晴らしさを世界へ発信する取り組みとして、実施が決定しました。

世界的に文化大国として知られ、また以前から日本文化の最もよき理解者でもあるフランスでの開催に向け、日仏両国が共同で取り組んでいます。

### コンセプト

タイトルである「ジャポニスム 2018：響きあう魂」には、二つの意味が込められています。

一つは、過去から現代までさまざまな日本文化の根底に存在する、自然を敬い、異なる価値観の調和を尊ぶ「美意識」です。日本人は、常に外部から異文化を取り入れ、自らの文化と響きあわせ融合させることで、新しい文化を創造してきました。多様な価値が調和し、共存するところにこそ、善悪を超えた「美」があるとする日本文化ならではの「美意識」を世界に紹介します。

二つ目は、日本とフランスの感性の共鳴です。文化芸術を通して日本とフランスが感性を共鳴させ、協働すること、さらには共鳴の輪を世界中に広げていくことで、21 世紀の国際社会が直面しているさまざまな課題が解決に向かうことを期待します。



## ● シンボルマークについて

---

「ジャポニスム 2018」のシンボルマークは、日本の文化が堂々と海を渡って外へ出ていく、その旗印となるようにデザインしています。

富士山、太陽、波は、古くから日本の文様などによく描かれるモチーフです。これらの要素を、シャープで現代的な造形と、海の深い青・太陽の赤・波の白の鮮やかなコントラストの色彩で表現しました。



### ■ 制作者：グラフィックデザイナー 服部一成（はっとり かずなり）

1964年東京生まれ。1988年東京芸術大学美術学部デザイン科卒業、ライトパブリシティ入社。

2001年よりフリーランス。

主な仕事に、「キューピーハーフ」の広告、雑誌『流行通信』『here and there』『真夜中』のアートディレクション、「三菱一号館美術館」のロゴタイプ、POLAの新VI、エルメスのイベント「petit hのオブジェたち」の会場デザイン、横山裕一『アイランド』や吉増剛造『GOZO ノート』の書籍のデザインなどがある。

毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、ADC賞、原弘賞、東京TDCグランプリなどを受賞。

## ● 公式企画一覧

ジャポニスム 2018の公式企画では、「展覧会」、「舞台公演」、「映像」、「生活文化 他」の4つのカテゴリー、50を超える日本の様々な芸術文化を紹介する予定です。なお、下記の各公式企画の名称、日程等は予告なく変更になる場合がありますので公式ウェブサイトにてご確認ください。(ジャポニスム 2018 公式ウェブサイト <https://japonismes.org>)

※公式ウェブサイト公開予定日時：2017年11月22日(水) 15:30

### 展覧会

カテゴリー別 NO.	名称	期間	会場
A-1	「チームラボ 境界のない世界」展	2018年5月4日(金)～9月2日(日)	ラ・ヴィレット
A-2	「池田亮司」展	2018年6月15日(金)～9月17日(月)	ボンビトゥ・センター
A-3	「Enfance / こども時代」展	2018年6月22日(金)～9月9日(日)	パレ・ド・トーキョー
A-4	「深みへ-日本の美意識を求めて-」展	2018年7月中旬～8月18日(土)	ロスチャイルド館
A-5	「井上有一」展	2018年7月中旬～9月中旬	パリ日本文化会館
A-6	ルーヴル美術館特別展示-名和晃平 彫刻作品	2018年夏～2019年2月末	ルーヴル美術館・ピラミッド内
A-7	「若冲-動植絵を中心に」展	2018年9月中旬～10月中旬	パリ市立プティ・パレ美術館
A-8	「安藤忠雄」展	2018年10月10日(水)～12月31日(月)	ボンビトゥ・センター
A-9	「縄文」展	2018年10月17日(水)～2018年12月8日(土)	パリ日本文化会館
A-10	「明治」展(実施調整中)	2018年10月17日(水)～2019年1月14日(月・祝)	ギメ東洋美術館
A-11	「京都の宝-琳派300年の創造」展	2018年10月26日(金)～2019年1月27日(日)	パリ市立ジェルヌスキ美術館
A-12	「ジャポニスムの150年」展	2018年11月15日(木)～2019年3月3日(日)	装飾美術館
A-13	「キャラクター-vs.都市：虚構×現実」展	2018年11月29日(木)～12月29日(土)	ラ・ヴィレット
A-14	「藤田嗣治」展	2019年1月15日(火)～3月16日(土)	パリ日本文化会館
A-15	「仏像展示-古都奈良の祈り」展	2019年1月23日(水)～3月18日(月)	ギメ東洋美術館

### 舞台公演

カテゴリー別 NO.	名称	期間	会場
B-1	邦楽ライブ 和太鼓×津軽三味線	2018年7月5日(木)～8日(日) (調整中)	ジャパン・エキスポ
B-2	和太鼓 DRUM TAO	2018年7月	ラ・セーヌ・ミュージカル (調整中)
B-3	雅楽 宮内庁式部職楽部	2018年9月3日(月)	フィルハーモニー・ド・パリ
B-4	松竹大歌舞伎	2018年9月14日(金)～20日(木) (予定)	国立シャイヨー劇場
B-5	野村万作×萬斎×杉本博司 『ディヴァイン・ダンス 三番叟』『月見座頭』	2018年9月19日(水)～25日(火)	パリ市立劇場 エスバス・ピエール・カルダン
B-6-a	現代演劇シリーズ-タニクワ演出 『ダークマスター』『地獄谷温泉 無明ノ宿』	『ダークマスター』2018年9月19日(水)～23日(日) 『地獄谷温泉 無明ノ宿』2018年9月22日(土)～26日(水)	国立演劇センター ジュスプリエ劇場
B-6-b	現代演劇シリーズ-松井周演出 『自慢の息子』	2018年10月5日(金)～8日(月)	国立演劇センター ジュスプリエ劇場
B-6-c	現代演劇シリーズ-藤田貴大演出 『書を捨てよ町へ出よう』	2018年11月	パリ日本文化会館
B-6-d	現代演劇シリーズ-岩井秀人構成・演出 新作	2018年11月22日(木)～12月4日(火)	国立演劇センター ジュスプリエ劇場
B-6-e	現代演劇シリーズ-岡田規演出 『三月の5日間』リクイエーション、『欲望の輪郭(仮)』	2018年秋	ボンビトゥ・センター
B-6-f	現代演劇シリーズ-杉原邦生演出 木ノ下歌舞伎『勸進帳』	2018年秋	ボンビトゥ・センター

B-7	宮本亜門演出 能×3D映像 『YUGEN 幽玄』	2018年9月	調整中
B-8	日仏ダンス共同制作 トリプルビル	2018年秋	国立シャイヨー劇場、リヨン・ダンスピエンナーレ 他
B-9	野田秀樹 演出作品	2018年9月28日(金)～10月3日(水)	国立シャイヨー劇場
B-10	コンテンポラリーダンスー川口隆夫 『大野一雄について』	2018年10月2日(火)～5日(金)	パリ市立劇場 エスパス・ピエール・カルダン
B-11-a	文楽	2018年10月12日(金)～13日(土)	シテ・ドラ・ミュージック
B-11-b	雅楽アンサンブル 伶楽舎	2018年10月13日(土)	フィルハーモニー・ド・パリ
B-11-c	和太鼓 林英哲と英哲風雲の会	2018年10月14日(日)	フィルハーモニー・ド・パリ
B-11-d	日本舞踊 井上八千代、富山清琴等出演	2018年10月14日(日)～15日(月)	シテ・ドラ・ミュージック
B-12	コンテンポラリーダンスー伊藤郁女×森山未来	2018年10月25日(木)～27日(土)	メゾン・デザール・ド・クレティユ
B-13	宮城聡演出 『マハーバータ ～ナラ王の冒険～』	2018年11月20日(火)～25日(日)	ラ・ヴィレット
B-14	能楽 野村萬、梅若玄祥、浅見真州等出演	2019年2月6日(水)～10日(日)	シテ・ドラ・ミュージック
B-15	蜷川幸雄演出 『海辺のカフカ』	2019年2月15日(金)～23日(土)	国立コリーヌ劇場
B-16-a	2.5次元ミュージカル パフォーマンスショー 『美少女戦士セーラームーン』	調整中	調整中
B-16-b	2.5次元ミュージカル ミュージカル『刀剣乱舞』	調整中	調整中
B-17	初音ミクコンサート(仮)	調整中	調整中

## 映像

カテゴリー別 NO.	名称	期間	会場
C-1-a	河瀬直美監督特集 2018年新作発表特別上映	2018年7月	調整中
C-1-b	河瀬直美監督特集 特別展・特集上映	2018年11月23日(金)～2019年1月6日(日)	ボンビドゥ・センター
C-2	日本映画の100年	2018年9月～2019年2月	シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館 他
C-3	テレビ日本月間	2018年秋	(テレビ放送)
C-4	KINOTAYO現代日本映画祭	2019年1月17日(木)～26日(土)	パリ日本文化会館、クラブ・ドゥ・レトワール・シネマ 他
C-5	『FOUJITA』上映会	2019年2月	パリ日本文化会館

## 生活文化 他

カテゴリー別 NO.	名称	期間	会場
D-1-a	「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ	2018年7月～2019年2月(会期中、数回実施予定)	パリ日本文化会館、パリ市内調理師養成専門学校 他
D-1-b	「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ	2018年秋	パリ市内レストラン 他
D-1-c	「日本の食と文化を考える」シリーズ	①2018年9月7日(金) ②2018年10月15日(月)～19日(金) ③未定	①ボンビドゥ・センター ②国際連合教育科学文化機関(UNESCO)本部 ③未定
D-2	シンポジウム・講演シリーズ	2018年7月～2019年2月(会期中、数回実施予定)	パリ日本文化会館 他
D-3	日本の花火	2018年9月8日(土)	サン＝クルー公園 (サン＝クルー市) ＜サン＝クルー大花火大会＞
D-4	エッフェル塔ライトアップ	2018年9月	エッフェル塔
D-5	伝統工芸シリーズ	2018年9月、11月、2019年2月	パリ日本文化会館、 ESPACE DENSAN (Maison WA内) 他
D-6	禅文化週間	2018年10月2日(火)～7日(日)	パリ市立劇場 エスパス・ピエール・カルダン、 パリ日本文化会館 他
D-7	「地方の魅力」週間―祭りと文化	2018年10月	パリ日本文化会館、アクリマタシオン庭園
D-8	茶の湯	2018年10月、2019年2月 他	パリ日本文化会館、アルベール・カン日本庭園、 ギメ東洋美術館 他
D-9	柔道	2018年秋、冬	ル・グラン・ドーム(ヴィルボン＝シュル＝イヴェット市) 他
D-10	いけばな	2019年1月～2月	パリ日本文化会館

## ● 参加企画について

---

「ジャポニスム 2018」においては、ジャポニスム事務局主催の「ジャポニスム 2018 公式企画」、に加え、より多くの方々に「ジャポニスム 2018」に参加していただく枠組みとして、「ジャポニスム 2018 参加企画」（以下、「参加企画」と略）を用意しています。

「ジャポニスム 2018」の趣旨にご賛同くださる方々がフランスで企画・実施される日本関連の催しについて、主催者からの申請をジャポニスム事務局が認定することにより「参加企画」と位置づけ、その実施にあたっては、「ジャポニスム 2018」のロゴマークをご利用いただくとともに、「ジャポニスム 2018」公式ウェブサイト等を通じた広報面での連携を図ります。

### ➤ 対象事業

「ジャポニスム 2018」の開催期間中にフランスで実施される日本関連の催しで、以下の全条件を満たすものを対象とします。

- (1) 「ジャポニスム 2018」の開催期間に実施されること。すなわち、原則として、2018年7月から2019年2月までの間に、事業が開始または終了すること。
- (2) 「ジャポニスム 2018」のコンセプトに沿っていること。
- (3) 「参加企画」認定を申請される時点で、スケジュール、予算、会場等を含む事業計画が十分整っており、事業が確実に実施されることが明らかであること。
- (4) 政治目的、あるいは布教等の目的を有するものではないこと。

※参加企画の申請についての詳細は、下記 URL をご参照ください。

<https://japonismes.org/entry>



Japonismes 2018

## ジャポニスム 2018 公式企画詳細

## <展覧会> A-1



チームラボ 境界のない世界

世界中で話題の展覧会を創り出し、国内外で大きな注目を集めているウルトラテクノロジスト集団「チームラボ」が手掛ける大規模な展覧会。

### 「チームラボ 境界のない世界」展

アート、サイエンス、テクノロジー、クリエイティビティの境界を越えて、集団的創造をコンセプトに活動し、米メディアCNNの「最も感動した視覚的瞬間」にも選ばれるなど、世界的に高い評価を得ているウルトラテクノロジスト集団「チームラボ」による大規模な展覧会です。

デジタルで描かれた滝が高さ10メートルの壁から床へと流れ、来場者の足元で割れながら空間に広がっていく作品から、自分で描いた動物が世界を創っていく教育的な作品まで、大空間を生かしたさまざまな作品が展開されます。

デジタルアートによって個々の作品を融合し、境界のない体験を実現することを試みる本展では、インタラクティブな要素によって、鑑賞者をも作品に取り込んでいきます。

「ジャポニスム2018」全体に先駆けてスタートする展覧会です。

期間： 2018年5月4日（金）～ 9月2日（日）

会場： ラ・ヴィレット

主催： 国際交流基金、ラ・ヴィレット

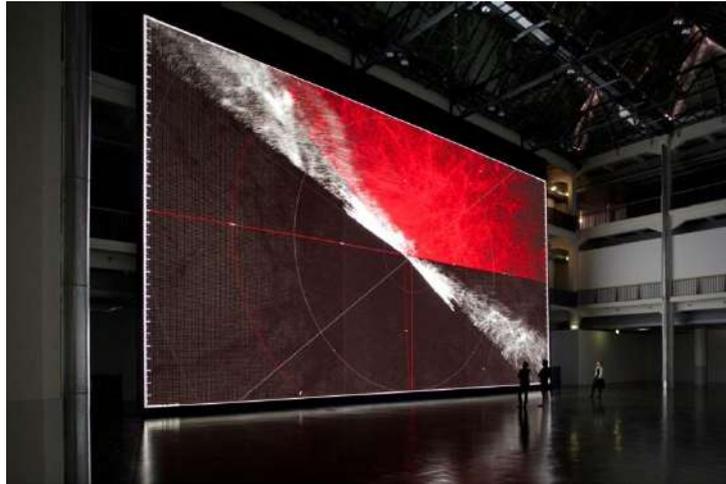
#### 展覧会コンセプト：

デジタルアートは物質から解放されました。物質でできたモノにこめられていた、創り手の思いや考えは、人々（来場者）の体験そのものにこめていくことができるのかもしれませんが。モノと違い、人は自らの身体で自由に動き、他者と関係性を持ち、身体で世界を認識しています。そして身体は時間を持ち、脳内で考えは、同じ脳内の他の考えと境界が曖昧なまま影響を受け合い、時には混ざり合っています。もし、アーティストが人々の体験そのものに、思いや考えをこめることができるならば、人と同様に、アート作品も定位置に留まらず自ら移動し、人々と関係性を持ち、身体と同じ時間の流れを持つ。そして、他の作品と境界が曖昧なまま影響を受け合い、時には混ざり合う。そのような作品群による、境界のない1つの世界を創ろう。

人々は、順路もなく自由に歩き回り、その世界に迷い込んでいきます。そして、その境界のない作品群は、人々の存在によって変化していきます。その1つの世界に他者と共に身体ごと没入し、溶け込んでいくことで、自分と他者との曖昧な境界、そして私たちと世界との境界のない新しい関係を模索していくのです。

展覧会詳細：<https://www.teamlab.art/jp/e/lavillette>

<展覧会> A-2



Ryoji Ikeda  
the planck universe[macro],2015  
photo: Martin Wagenhan  
©Ryoji Ikeda, Courtesy of ZKM | Karlsruhe

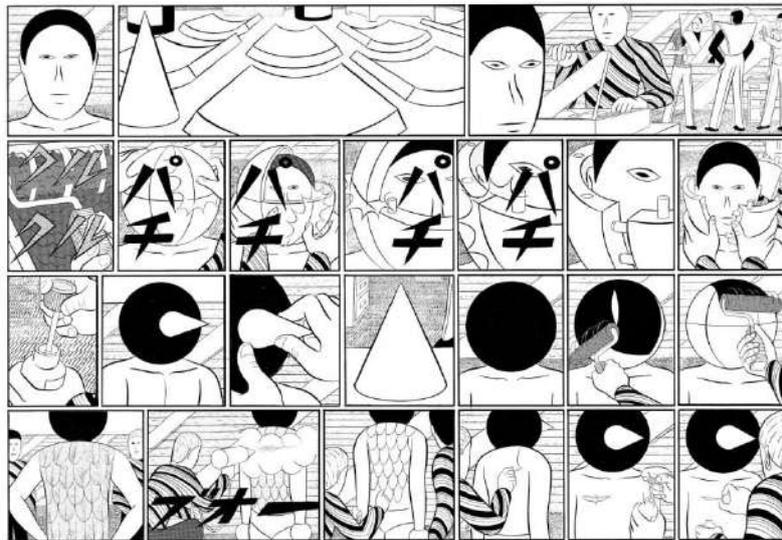
最先端のデジタル技術を駆使した池田亮司の「音」、「光」、「データ」による最新のインスタレーション。

### 「池田亮司」展

パリと京都を拠点に活動する池田亮司(1966-)の個展です。ポンピドゥ・センターでの展覧会のために、新作のインスタレーションが制作されます。世界各地の美術館、劇場、芸術祭などで注目を集める池田亮司は、日本を代表する電子音楽作曲家／アーティストで、音響、映像、物質、物理現象、数学的概念等を用いた、体感型の作品を数多く発表しています。本展は、スイスの CERN（欧州原子核研究機構）での滞在(2014-15)、ドイツのカールスルーエ・アート&メディア・センター(ZKM)での「micro/macro」展(2015)に続く、新作となります。会期中にコンサートが予定されます。

期間： 2018年6月15日（金）～ 9月17日（月）  
会場： ポンピドゥ・センター  
主催： 国際交流基金、ポンピドゥ・センター  
キュレーター： マルチエラ・リスタ（ポンピドゥ・センター・ニューメディアコレクション主任学芸員）

<展覧会> A-3



横山裕一「ドレスアップ」より（「ニュー土木」収録、©イースト・プレス、2003）

日本人漫画家を含む日仏、および国際的なアーティスト、フランス工芸職人などによる多彩な作品を、現代美術的なアプローチで紹介する日仏共同企画の展覧会。

### 「Enfance / こども時代」展

最先端の現代アートを常に発信しているパレ・ド・トーキョーにおいて開催する、日本とフランス、ならびにさまざまな国のアーティストによる、「こども時代」をテーマにした日仏共同企画の現代アート展です。

3000㎡の展示スペースを使って繰り広げられる現代アートの作家やフランス工芸職人による大型作品の数々は、ラビリンスのように展開し、こども時代の空想、神話、そして成長の問題などを問いかけます。

本展は、日本人作家を含めた20人近くのさまざまな国の作家たちの作品をご覧いただくと共に、日本人漫画家・横山裕一とのコラボレーションを発見して頂くまたとない機会となるでしょう。

- 期間： 2018年6月22日（金）～ 9月9日（日）
- 会場： パレ・ド・トーキョー
- 主催： 国際交流基金、パレ・ド・トーキョー
- チーフ・キュレーター： ジャン・ド・ロワジー（パレ・ド・トーキョー館長）
- キュレーター： ヨアン・グルメル、サンドラ・アダム・クラレ（共にパレ・ド・トーキョー キュレーター）
- アソシエイト・キュレーター： 金澤韻<sup>こだま</sup>（インディペンデント・キュレーター）
- 日本人参加作家： 横山裕一ほか約5, 6名

<展覧会> A-4



国宝 <火焰型土器> 十日町市博物館所蔵  
前 3,500~2,500 年



ANREALAGE, collaboration with NAWA Kohei |  
SANDWICH, ANREALAGE 2017-2018 autumn  
& winter collection "ROLL"

伝統と現代、混沌と形式、永遠と一瞬、2つで1つとなること-「日本の美意識」がひらく共存、共創への可能性。

**「深みへ-日本の美意識を求めて-」展**

本展は、パリの中心に位置する19世紀のロスチャイルド館において、伝統的な作品と、現代の作品をあわせた展示を通して、日本の美意識を見せます。例えば縄文土器と、それから想をえた、若手デザイナーのアンリアルエイジの彫刻ドレスは、異なる芸術的媒材と異なる時代の間が存在する調和を表す完璧な例であり、日本の美意識の特徴的価値のひとつ「生命感」を表しています。「プリミティヴィズム」、「異種混淆」、「引き算の美学-ミニマリズム」、「物質の変容-錬金術」、「軽みの哲学」、「新生-繰り返される再生」、「変化-生命の表現」などさまざまなテーマや媒体の多様性（絵画、インスタレーション、写真、ファッション、彫刻など）を通して、この展覧会は伝統と革新の二つの要素が一つになっている日本の美学に新しい視点と理解をもたらします。

期間： 2018年7月中旬 ~ 8月18日（土）

会場： ロスチャイルド館

主催： 国際交流基金

イニシャル・コンセプト： 津川雅彦（ジャポニスム 2018 総合推進会議総括主査）

キュレーター： 長谷川祐子（東京都現代美術館参事・東京藝術大学教授）

<展覧会> A-5



井上有一「無我」1956年  
京都国立近代美術館蔵 ©UNAC TOKYO



井上有一「貧」1972年 京都国立近代美術館蔵  
©UNAC TOKYO

「書」の概念を塗り替え、前衛画家にも通ずる挑発的な作品を生み出した書家、井上有一。  
そのアグレッシヴで、オリジナルな表現の世界を紹介。

## 「井上有一」展

古来の伝統的な書に留まらず、それを紙と墨からなる芸術作品へと昇華させ、戦後日本の伝統美術の前衛グループの中で、もっとも創造的活動を展開した一人とされる書家、井上有一(1916～1985年)。その代表作を中心に紹介する個展。紙と墨による簡素な材料、技法によって生まれる豊かで多様なモノクロームの世界を紹介する。

初期の代表作《無我》、生き様と思想が表現された《貧》、ボンド(墨)や凍らせた墨など、使用する素材と描法にも工夫を凝らした一字書《好》のほか、コンテや鉛筆、木炭を使って、語りながら書いた《宮沢賢治童話 よだかの星》など、さまざまなタイプの作品を展示します。日本の伝統文化である「書」を、世界の芸術の中でどのように位置づけていくかを追求し続けた井上有一芸術の核心に迫ります。

- 期間： 2018年7月中旬～9月中旬  
 会場： パリ日本文化会館  
 主催： 国際交流基金  
 特別協力： 京都国立近代美術館  
 協力： 株式会社ウナクトウキョウ、一般財団法人世界紙文化遺産支援財団紙守  
 キュレーター： 秋元雄史(東京藝術大学大学美術館館長・教授)

<展覧会> A-6

ルーヴル美術館のピラミッド内に、名和晃平による大型彫刻作品が出現。

**ルーヴル美術館特別展示—名和晃平 彫刻作品**

「ジャポニスム 2018」の開催期間中、ルーヴル美術館にて、日本人彫刻家 名和晃平が大型彫刻作品を特別展示します。

伝統技術、先端テクノロジー、素材、テクスチャーを独自のロジックで融合し、創り出された作品が、ピラミッドのガラス越しに堂々と鎮座します。

期間： 2018年夏 ～ 2019年2月末

会場： ルーヴル美術館・ピラミッド内

主催： 国際交流基金、ルーヴル美術館

<展覧会> A-7



伊藤若冲〈老松白鳳図〉  
(動植綵絵 30 幅のうち)  
宮内庁三の丸尚蔵館蔵



伊藤若冲〈群鶏図〉  
(動植綵絵 30 幅のうち)  
宮内庁三の丸尚蔵館蔵



伊藤若冲〈釈迦如来像〉  
京都・相国寺蔵

欧州初の大規模な若冲展。宮内庁三の丸尚蔵館の若冲最高傑作、『動植綵絵』をパリに紹介。

**「若冲—〈動植綵絵〉を中心に」展**

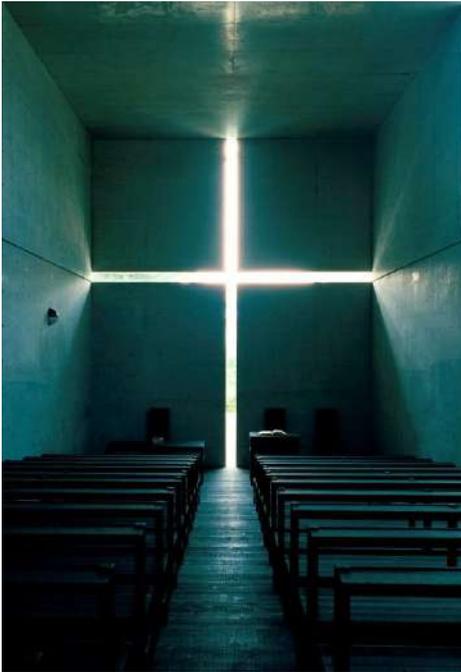
江戸中期の京都で活躍し、その緻密な描写と色彩で、日本国内でも絶大な人気を誇る伊藤若冲。最高傑作とされる『動植綵絵』（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）は、動植物の丹念な観察を通じて得られた現実の姿と、空想の世界を絵画として具現化した作品で、その驚くべき緻密な描写と極彩色で描き上げられた花鳥画は、芸術的にも、技巧的にも、日本美術の最高水準を示すものです。

本展は、「ジャポニスム 2018」のメインプロジェクトの一つとして、この『動植綵絵』を欧州にて初公開します。

これまでに、海外で『動植綵絵』全 30 幅が一堂に展示されたのは、2012 年に米国ワシントン・ナショナル・ギャラリーで開催された展覧会のみです。今回は、『動植綵絵』30 幅を、相国寺が所蔵する『釈迦三尊像』と共に本来の一揃いの形で展示します。

- 期間： 2018 年 9 月中旬 ～ 10 月中旬  
 会場： パリ市立プティ・パレ美術館  
 主催： 国際交流基金、日本経済新聞社、宮内庁、パリ市立プティ・パレ美術館/パリミュゼ  
 キュレーター： 太田彩（宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官）  
 マヌエラ・モスカティエロ（パリ市立チェルヌスキ美術館日本美術担当）

<展覧会> A-8



<光の教会> 大阪府、1989年  
撮影：松岡満男



<直島 ヘネッセハウス> 香川県 1992年/1995年  
撮影：松岡満男

建築家・安藤忠雄の半世紀に及ぶ挑戦の軌跡と未来への展望に迫る。

## 「安藤忠雄」展

国際的に著名な建築家、安藤忠雄(1941-)の個展です。独学で建築を学んだ安藤忠雄は、デビュー以来、常にその斬新な作品で建築界に衝撃を与えてきました。

本展では、これまでの活動の軌跡とこれからの展望を、模型、スケッチ、ドローイングや映像などを通して紹介します。フランスにおいて近年とりわけ人気の高い日本の建築の魅力をパリ、さらには世界に向けて発信します。

期間： 2018年10月10日(水)～12月31日(月)

会場： ポンピドゥ・センター

<展覧会> A-9



重要文化財 <遮光器土偶> 縄文時代(晩期)・前 1000～前 400 年  
青森県つがる市木造亀ヶ岡出土 東京国立博物館蔵

縄文時代の美を体現する国宝火焰型土器をはじめとした土器に加え、土偶や装身具など、多くの国宝や重要文化財を含む出土品を一堂に紹介。

## 「縄文」展

一万年もの長きにわたって続いた縄文時代。その時代に生きた人々の豊かな感性と、力強い造形美、そして精神文化は、21世紀を生きる私たちにも、深い示唆と刺激を与えてくれます。

1998年、国際交流基金がパリ日本文化会館で開催した「縄文展(JŌMON: l'art du Japon des origines)」は、日本の芸術に造詣の深いフランス人に新鮮な驚きと共に迎えられ、多くの人々を魅了しました。

今回、20年ぶりに再びパリで開催される本展覧会は、2018年夏、東京国立博物館で開催される特別展「縄文-一万年の美の鼓動」をパリ向けに再構成するものです。縄文時代の美を体現する国宝火焰型土器をはじめとした土器に加え、土偶や装身具など、多くの国宝や重要文化財を含む出土品を一堂に紹介し、日本美の原点である縄文の美と、それを生み出した縄文人たちの豊かな精神文化の魅力を提示します。

- 期間： 2018年10月17日(水)～12月8日(土)  
会場： パリ日本文化会館  
主催： 国際交流基金、文化庁、東京国立博物館  
キュレーター： 原田昌幸(文化庁美術学芸課主任調査官)  
品川欣也(東京国立博物館学芸研究部調査研究課考古室主任研究員)

<展覧会> A-10

激動の時代「明治」にスポットを当て、洋画、日本画などの近代絵画から、工芸、テキスタイルまで、多岐にわたる作品群により、明治という時代の美術的側面を紹介。

**「明治」展（実施調整中）**

明治 150 年、および本展会場となるギメ東洋美術館の創設者であるエミール・ギメの没後 100 周年を記念して、明治時代をテーマとする美術展を開催します。

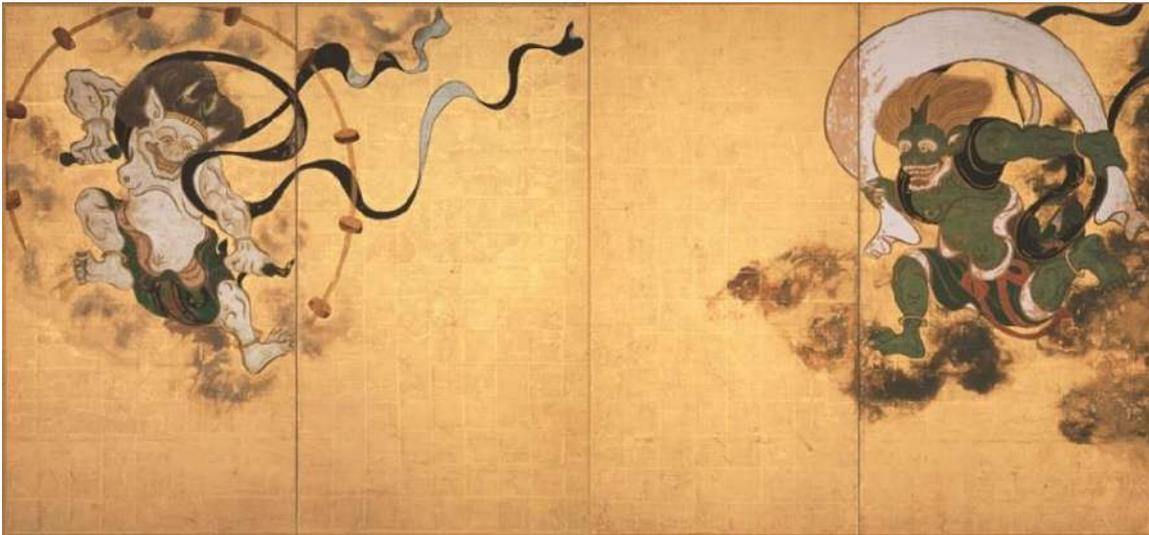
日本の歴史の中でも、あらゆる分野、特に文化において、もっとも重要な変革の時代であった明治時代。本展は、日本にとって激動の時代であった明治時代に、美術的な側面から焦点を当てます。

フランスのコレクションに含まれる日本の知られざる作品の再発見と、その価値へのフォーカスをテーマに、浮世絵、日本画、油彩画から、陶器、漆器、金工品、テキスタイルなどの作品を展示します。フランスのコレクションを中心に、欧州や日本の美術館からも重要な作品を加えて構成する予定です。

期間： 2018 年 10 月 17 日（水）～ 2019 年 1 月 14 日（月・祝）

会場： ギメ東洋美術館

<展覧会> A-11



国宝 〈風神雷神図屏風〉 俵屋宗達筆 京都・建仁寺蔵 江戸時代

国宝 風神雷神図屏風のヨーロッパ初公開。

宗達、光琳をはじめとする琳派の傑作が揃う、今後またとないであろう珠玉の展覧会。

### 「京都の宝—琳派 300 年の創造」展

桃山時代後期に京都で生まれた琳派は、時と場所に縛られず、世代を超えた私淑により受け継がれた他に類を見ない美術の流派です。その潮流は、本阿弥光悦、俵屋宗達から、尾形光琳・乾山、近代の神坂雪佳に至るまで、古典的な要素を含みつつも、常にその時代における新しい美として受け継がれてきました。

本展では、特に京都での創造に絞り、日本国内でも公開される機会の稀な琳派の傑作を、国宝、重要文化財を含めて選りすぐって展示します。琳派芸術の中心をなす絵画をはじめ、書跡、陶芸、漆工などの調度品も取り上げ、日本美術の粋ともいえる琳派の総合性を示すとともに、その絢爛豪華な様式美、現代の生活美術全般にも通じる斬新なデザイン感覚を紹介します。

期間： 2018年10月26日（金）～ 2019年1月27日（日）

会場： パリ市立テルヌスキ美術館

主催： 国際交流基金、京都国立近代美術館、細見美術館、パリ市立テルヌスキ美術館/パリミュゼ

キュレーター： 細見良行（細見美術館長）

松原龍一（京都国立近代美術館学芸課長）

マヌエラ・モスカティエツコ（パリ市立テルヌスキ美術館日本美術担当）

<展覧会> A-12



©Jean Tholance/Les Arts Decoratifs

装飾美術館の日本美術コレクションと、日本から出品される工芸作品等、さらに、現代の作家、職人、デザイナーらの作品も展示。19世紀後半から現代までの工芸、デザイン、ファッションを横断的に紹介。

### 「ジャポニズムの150年」展

本展では、パリの装飾美術館の10,000点を数える日本美術コレクションから厳選された作品を中心に、日本から貸し出される作品、日本の影響を受けて欧州で制作された作品を加えて構成し、19世紀後半から今日までの150年にわたる日仏両国の芸術上の相互影響に焦点をあてます。

2,000㎡を超える大規模な本展は、人間、自然、時間、革新、動きという5つのテーマに沿って展開され、美術工芸品からプロダクト・デザイン、グラフィックアート、ファッション、写真も含めて幅広い芸術作品がジャンル横断的に展示されます。

期間： 2018年11月15日（木）～ 2019年3月3日（日）

会場： 装飾美術館

主催： 国際交流基金、装飾美術館

協力： Heart and Crafts

総合監修： オリヴィエ・ガベ（装飾美術館長）

キュレーター： ベアトリス・ケット（装飾美術館アジアコレクションキュレーター）

川上典季子（ジャーナリスト、21\_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター）

アドバイザー： コシノジュンコ（デザイナー）

諸山正則（東京国立近代美術館特任研究員）他

<展覧会> A-13



参考画像 「第9回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示「おたく：人格＝空間＝都市」展示風景」（2004年）

都市（東京）を映し出してきた日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品と、それらフィクションを注入された現実の（東京）の、複合的体験を提供する企画展示。

### 「キャラクターvs.都市：虚構×現実」展

日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品は、都市（東京）の特徴や変化を、鏡のように映しだしてきました。本展は、そのさまざまな描写を、多数の原画や模型、映像などでたどります。現実の都市の特徴がいかにかにフィクションを生起し、方向付けてきたのか。またそれらフィクションやそのキャラクターが、現実の都市にいかなるイメージを重層的に付与し、作用をおよぼしてきたのか。本展は、日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮の展示であると同時に、そこに映し出され、さらには人々の記憶の中で重合された、（東京）を展示します。「聖地巡礼」など、アニメやゲームが観光資源として注目される中、その意味や可能性に光を当てます。

期間： 2018年11月29日（木）～ 12月29日（土）  
会場： ラ・ヴィレット  
主催： 国際交流基金、国立新美術館、マンガ・アニメ展示促進機構、ラ・ヴィレット  
キュレーター： 森川嘉一郎（明治大学国際日本学部准教授）

<展覧会> A-14



左より  
 藤田嗣治「タビスリーの裸婦」1923年 京都国立近代美術館蔵 ©Foundation Foujita / ADAGP, Paris & JASPER, Tokyo, 2017 E2863  
 藤田嗣治「メキシコに於けるマドレーヌ」1934年 京都国立近代美術館蔵 ©Foundation Foujita / ADAGP, Paris & JASPER, Tokyo, 2017 E2863

中南米からアジア、日本への旅。そして戦地へ——。  
 パリに輝き、パリに没したフジタの知られざる時期の作品を中心に紹介。

### 「藤田嗣治」展

藤田嗣治は若くしてパリに渡り、ここでエコール・ド・パリの芸術家として高い評価を得ました。三度にわたる彼のパリ滞在（1913-1931、1939-1940、1950-1968）中には、藤田にとって重要な出来事がいくつも起きています。個展の成功、フランスへの帰化、カトリックへの改宗などです。

本展では、藤田がパリに渡った1913年からパリを離れる1931年までの作品、中南米を旅し日本に戻り、東京を起点に日本各地や中国から東南アジアまで足を伸ばした1930-40年代の作品、さらには戦後、終の棲家と定めることになるフランスへのオマージュとして制作された作品を紹介します。フランスで最も知られているのは最初のパリ滞在時に制作されたものですが、これまで紹介されることが少なかった1930-40年代の作品はほとんど知られていません。60年に及ぶ藤田の創造活動を総括し、藤田にとって第二の故郷であるパリで日本を中心に各地から集められた作品を展示する貴重な機会となる展覧会です。

- 期間： 2019年1月15日（火）～ 3月16日（土）  
 会場： パリ日本文化会館  
 主催： 国際交流基金、京都国立近代美術館  
 キュレーター： 林洋子（美術史家、文化庁芸術文化調査官）  
 ソフィー・クレプス（パリ市立近代美術館チーフキュレーター）  
 実行委員： 高階秀爾（大原美術館館長）  
 尾崎正明（茨城県近代美術館館長）他

<展覧会> A-15



国宝 木造金剛力士立像（吽形）



重要文化財 木造地藏菩薩立像



国宝 木造金剛力士立像（阿形）

写真提供：興福寺

奈良・興福寺の代表的仏像の展示をとおして、一千年以上の長きにわたって培われ・育まれてきた祈りの精神と美を紹介。

### 「仏像展示－古都奈良の祈り」展

「日本」のはじまりの地と言われている奈良には、ユーラシア大陸における東西文化交流を背景に持つ仏像が受け継がれてきました。奈良の社寺では長い祈りの歴史とともに、その伝統に根差した造形文化が育まれています。

本展では、名刹・興福寺で大切に守り伝えられてきた至宝のうち、「木造地藏菩薩立像」（重要文化財）と、「木造金剛力士立像（阿形・吽形）」（国宝）を厳選して展示します。普段は奈良を訪れなければ味わえない、眼前の仏像から放たれる美しさや迫力、その精神性の一端を伝える貴重な展示をとおし、シルクロードの東の終着点として日本文化の礎を築いた古都「奈良」の新たな魅力を紹介します。

- 期間： 2019年 1月23日（水）～ 2019年 3月18日（月）  
 会場： ギメ東洋美術館  
 主催： 奈良県、ギメ東洋美術館  
 共催： 国際交流基金  
 特別協力： 興福寺、奈良国立博物館、東京国立博物館、日本経済新聞社

<舞台公演> B-1



古立ケンジ（和太鼓）



大野敬正（津軽三味線）

邦楽の新たなる可能性へ！—和太鼓×津軽三味線による伝統と革新のライブ・パフォーマンス

### 邦楽ライブ 和太鼓×津軽三味線

「伝統と革新」をテーマに和を代表する楽器である津軽三味線と和太鼓による進化系の邦楽パフォーマンスをジャパンエキスポにて実施します！本来の伝統的なスタイルとは別に常に新しさを追い求める側面を持つ和楽器。今回は邦楽の持つ「間」と洋楽のリズムを取り入れ、デジタルサウンドに合わせたパフォーマンスを披露します。伝統楽器に真剣に向き合うことを通して伝統に対するイメージを覆し、革新へと挑みながら、常に進化する邦楽の新しい可能性をお楽しみ下さい。

期間： 2018年7月5日（木）～ 8日（日）（調整中）  
会場： ジャパン・エキスポ  
主催： 国際交流基金  
協力： ジャパン・エキスポ  
スタッフ／キャスト： 古立ケンジ（和太鼓）、大野敬正（津軽三味線）  
プロデューサー 羽田野次郎

<舞台公演> B-2



©DRUM TAO

世界 23 カ国・500 都市・観客動員数 700 万人—世界を魅了する和太鼓集団がフランス初公演。

## 和太鼓 DRUM TAO

表現力豊かな和太鼓演奏と圧倒的なヴィジュアルにより世界を魅了してきた DRUM TAO。

近年ではコシノジュンコが衣裳デザインに加わり、和を基調とした衣裳が DRUM TAO の独自の世界観に華を添えています。「最新の日本エンターテインメント」と評された 2016 年のニューヨーク・オフ・ブロードウェイ公演では全 6 公演が完売し、ニューズウィーク誌が「TAO は日本を世界へ売り込む『顔』になる！」と絶賛しました。

年間400回を越える公演によって和太鼓を主とする和楽器の魅力を世界に広めた功績が称えられ、「大分県文化功労者 学術・文化振興賞」、「竹田市文化創造賞」、「第 6 回観光庁長官表彰」を受賞。今回、フランスでは初の公演となります。

期間： 2018 年 7 月  
会場： ラ・セーヌ・ミュージカル（調整中）  
主催： 国際交流基金

<舞台公演> B-3



宮内庁式部職楽部による雅楽の公演。

平安時代に端を発し、宮廷、貴族社会、有力社寺で演奏されてきた雅楽が、平成のパリで蘇ります。

### 雅楽 宮内庁式部職楽部

実に千数百年の歴史にも及ぶ伝承を守る宮内庁式部職楽部が、器楽を演奏する「管絃」、舞を主とする「舞楽」、声乐を主とする「歌謡」を披露します。雅楽は歴史的、芸術的に世界的価値を有する伝統芸能として、2009年にはユネスコ無形文化遺産にも指定されました。古代アジア各地の歴史が色濃く反映された「現代の古典音楽」は、音楽関係者を中心に海外でも注目を集めています。雅な歌と舞、豪華絢爛な装束による「世界最古のオーケストラ」とも呼ばれる宮廷音楽を、平成のパリに再現します。

期間： 2018年9月3日（月）  
会場： フィルハーモニー・ド・パリ  
主催： 国際交流基金、宮内庁、フィルハーモニー・ド・パリ  
協力： 株式会社 KAJIMOTO、有限会社伊藤事務所  
出演： 宮内庁式部職楽部

<舞台公演> B-4



中村獅童



中村七之助

写真提供：松竹株式会社

パリが待ち焦がれた日本の歌舞伎。

今をときめく人気俳優の中村獅童、中村七之助が国立シャイヨー劇場にて華やかに御目見得！

## 松竹大歌舞伎

日本の歌舞伎が国立シャイヨー劇場のシーズンオープニングを華々しく飾ります。本公演がパリデビューとなる中村獅童と中村七之助による歌舞伎の代表作をお楽しみ下さい。

### 歌舞伎十八番の内 鳴神（なるかみ）

平安時代、朝廷に恨みを抱いた鳴神上人は、世界中の龍神を滝壺に封じ込め、その結果雨が一滴も降らなくなりました。そこで、鳴神上人の行法を破り雨を降らせるべく、帝は雲絶間姫を鳴神上人のもとに差し向けますが…。美貌の雲絶間姫の色香によって高僧である鳴神上人が墮落、破戒する分かりやすい筋立てで、男女の愛欲情痴を描き出します。前半は古風でおおらかな台詞劇、後半は豪快で様式美に富んだ荒事で演じられる見どころの多い一幕です。

### 色彩間苺豆（いろもようちよとかりまめ） かさね

下総国羽生村の木下川（きねがわ）堤で、与右衛門と腰元かさねは道ならぬ恋の末、心中を決意。そこへ、草刈鎌が突き刺さった髑髏と卒塔婆が川面に流れてきます。かつて自らが殺めた男の髑髏と気付いた与右衛門は、恐怖のあまり卒塔婆を折りますが、その途端、かさねが顔を押し付けて苦しみます…。美男美女ふたりの風情を描く前半、中盤の殺しの場、さらにはかさねが怨霊と化して与右衛門を引き戻すクライマックスと、全編に歌舞伎の様式美が溢れる舞踊劇の名作です。

期間： 2018年9月14日（金）～ 20日（木）（予定）

会場： 国立シャイヨー劇場

主催： 国際交流基金、国立シャイヨー劇場

共催： フェスティバル・ドートンヌ・パリ

企画・製作： 松竹株式会社

出演： 中村獅童、中村七之助 他

<舞台公演> B-5



『月見座頭』世田谷パブリックシアター「狂言劇場その参」  
野村万作 ©Shinji Masakawa



『三番叟』野村萬齋  
©公益財団法人小田原文化財団



『三番叟』野村裕基  
©Shinji Masakawa

日本を代表する現代美術作家・杉本博司による舞台空間の中、  
第一線で活躍する狂言師・野村万作、萬齋、裕基の親子三代による夢の共演！

**野村万作×萬齋×杉本博司『ディヴァイン・ダンス 三番叟』『月見座頭』**

三番叟は我が国に伝わる幾多の芸能の中でも、最も古い形式を留める古曲である。その源は天照大神の天岩戸伝説の頃まで遡ることができると言われている。この舞は、神が降霊する様を現したものであり、神事として最も重い曲として扱われる。その曲の流れは、時に静かに、時に激しく、舞を舞う生身の人間の身体に、密かに舞い降りる神霊の姿が見え隠れする。我が国における神の姿は、古来より気配としてのみ現われる。その気配は、現代社会へと墮した今日の本にあって、確実に存在することを、あなたは目の当たりにする。そして神が秘そむ域で、あなたは息を潜める。鏡板にかえて、雷(いかづち)を染め抜いた幔幕をもって古代の神話空間とした。(杉本博司)

期間： 2018年9月19日(水)～25日(火)  
会場： パリ市立劇場 エスペース・ピエール・カルダン  
主催： 国際交流基金、パリ市立劇場  
共催： 公益財団法人小田原文化財団、フェスティバル・ドートンヌ・パリ  
制作協力： 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター  
構成・美術： 杉本博司  
出演： 野村万作、野村萬齋、野村裕基 他

<舞台公演> B-6-a



『ダークマスター』 ©Takashi Horikawa



『地獄谷温泉 無明ノ宿』 ©Shinsuke Sugino

ここは日常か、非日常か。倒錯した世界で生きる人間を緻密に描くタニノクロウ、2 作品同時上演！

**現代演劇シリーズ—タニノクロウ演出『ダークマスター』『地獄谷温泉 無明ノ宿』**

2016年にパリで初演を迎えたタニノクロウ率いる庭劇団ペニノ、観客の熱い期待に応え、早くも2作品をフェスティバル・ドートンヌ・パリで上演します！

**『ダークマスター』**

大阪にある洋食屋「キッチン長嶋」。超一流の腕を持つマスターが一人でやっている小さな洋食屋にある日、一人の若者が客として訪れる。マスターは自分の代わりにここのシェフになればと提案するが、若者に料理人の経験はなく、マスターは若者に無線を使って料理の手順を伝えるという。行く当てもない若者はそれを引き受けるが…。

**『地獄谷温泉 無明ノ宿』**

舞台は山奥にある古い湯治宿。秋が冬支度をし始めたある日、東京から風変わりな二人の親子がやってきたことから物語は始まる。この宿の主人に頼まれて人形劇を見せに来た人形遣いの親子。村人たちはこの風変わりな親子の突然の訪問に、困惑する一方、強く興味を惹かれていく。村人たちが心の深淵を揺さぶられ、暗部を露わにしていく様を描いた2016年岸田國土戯曲賞受賞作品。

期間：	『ダークマスター』	2018年9月19日（水）～ 23日（日）
	『地獄谷温泉 無明ノ宿』	2018年9月22日（土）～ 26日（水）
会場：	国立演劇センター ジュヌビルエ劇場	
主催：	国際交流基金、国立演劇センター ジュヌビルエ劇場	
共催：	東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、フェスティバル・ドートンヌ・パリ	
出演：		
『ダークマスター』	緒方晋、井上和也、FO ベレイラ宏一朗、坂井初音、野村真人 他	
『地獄谷温泉 無明ノ宿』	マメ山田、辻孝彦（劇団唐組）、飯田一期、日高ボブ美（ロ字ツク）、久保亜津子、森準人、石川佳代	

<舞台公演> B-6-b



©Toru Hiraiwa

観客の五感全てを呼び覚ます松井の代表作『自慢の息子』がフェスティバル・ドートンヌ・パリのプログラムにてヨーロッパ初演。テキストやイメージが精緻に積み重なる瞬間を見逃すな！

### 現代演劇シリーズー松井周演出『自慢の息子』

40歳を超えて定職につかない独身の男「正」がアパートの一室に独立国を作る。そのアパートの家賃は年老いた母親の年金生活で賄われている。「ガイド」と呼ばれる男に導かれ、日本からの亡命を試みる兄妹と「正」の母親が、その独立国を訪ねる。アパートの隣の部屋には、騒音に近い音楽を聴きながら洗濯物を干す女が住む。彼らは自らの領土を主張しながら、奇妙な同居生活を始める。日本人独特の親子のつながりや登場人物たちの孤独を考察した2011年岸田國土戯曲賞受賞作品。

劇作家・演出家の松井周(1972-)は、2007年に劇団サンプルを結成。松井が描く猥雑かつ神秘的な世界の断片を継ぎ目なくドライブさせていく作風は、世代を超えて広く支持を得ています。本作がヨーロッパデビュー作品となります。

期間： 2018年10月5日(金)～8日(月)  
会場： 国立演劇センター ジュヌビルエ劇場  
主催： 国際交流基金、国立演劇センター ジュヌビルエ劇場  
共催： 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、一般社団法人サンプル、  
フェスティバル・ドートンヌ・パリ

<舞台公演> B-6-c



©Nobuhiko Hikichi

「言葉の錬金術師」寺山修司の初期代表作をマームとジブシーを率いて若手演劇人の藤田貴大が演出します。

**現代演劇シリーズ—藤田貴大演出『書を捨てよ町へ出よう』**

没後35年を迎える寺山修司の初期の代表作『書を捨てよ町へ出よう』…青春の叙情にあふれるそのタイトルはあまりにも有名ですが、同名の評論集(1967)、舞台(1968)、映画(1971)のそれぞれが別個の内容になっています。

2007年に演劇団体マームとジブシーを立ち上げ、2012年に26歳の若さで岸田國土戯曲賞を受賞し若手演劇人として活躍を続けている藤田貴大。その藤田が2015年に映画版に依拠しつつ、寺山を思わせる登場人物を配することにより、寺山の評論・舞台・映画を集大成した、寺山に捧げる新たな作品として演出しました。寺山とその作品が常にそうあったように、時代を挑発し、すぐに消えてしまう若さというものに、美しさとグロテスクさを刻み付けた作品になっています。

期間： 2018年11月  
会場： パリ日本文化会館  
主催： 国際交流基金  
共催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

<舞台公演> B-6-d



©Toru Hiraiwa

岩井秀人×国立演劇センタージュヌビルエ劇場の日仏コラボレーションがフェスティバル・ドートンヌ・パリで実現。  
ジュヌビルエに生きる人々取材しながら、フランス人と初の共同制作に挑む！

### 現代演劇シリーズー岩井秀人構成・演出 新作

国立演劇センタージュヌビルエ劇場新芸術監督ダニエル・ジャストーが、現代日本演劇シーンを代表する劇作家・演出家の岩井秀人（劇団ハイバイ主宰）にアソシエイト・アーティストとして2018年秋発表の新作をオファー。16歳から20歳の間ひきこもり生活を送っていた岩井は作品を通して、自由でエスプリのきいた表現を駆使し、儂く美しいながらも躍動感のあるタッチで様々な側面を持つ現代社会やそこに生きる人々の生き様を描き出します。

今回の新作はアマチュア・プロに限らずその人自身の人生を演劇にするプロジェクト。2018年秋の本番に向けて、岩井はジュヌビルエに複数回滞在しながら、ユニークな人生経験を持つ住民や俳優とワークショップや稽古を重ね、台本を作ります。彼らと共に生み出される岩井の初・日仏共同制作に乞うご期待！

期間： 2018年11月22日（木）～ 12月4日（火）  
会場： 国立演劇センター ジュヌビルエ劇場  
主催： 国際交流基金、国立演劇センター ジュヌビルエ劇場  
共催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、フェスティバル・ドートンヌ・パリ

<舞台公演> B-6-e



チェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーション  
©Kenta Cobayashi

日本現代演劇の旗手・岡田利規(チェルフィッチュ主宰)が生み出す、演劇の起点かつ新領域。

**現代演劇シリーズ—岡田利規演出『三月の5日間』リクリエーション、『欲望の輪郭(仮)』**

チェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーション：アメリカ軍がイラク空爆を開始した2003年3月21日を含む5日間を過ごす数組の若者たちの日常を描き、当時の社会不安を浮き彫りにした『三月の5日間』。独特の言葉と身体性を用いた手法で日本現代演劇の潮流を変え、2005年岸田國土戯曲賞を受賞した本作を、20代前半の若い俳優とともにリクリエーションし、作品の新境地を切り拓く。

日タイ国際共同制作プロジェクト『欲望の輪郭(仮)』：タイの気鋭小説家ウティット・ヘームムーン氏による『欲望の輪郭(仮)』を岡田利規が舞台化。1990年代初頭から2017年現在のタイに生きる芸術家の半生と性愛遍歴を描きながら、同じく芸術家であり同世代でもある岡田とウティットが自身の半生を投影し、日本とタイの<今>を映し出す。

期間： 2018年秋  
会場： ポンピドゥ・センター  
主催： 国際交流基金、ポンピドゥ・センター  
共催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、フェスティバル・ドートンヌ・パリ

**『三月の5日間』リクリエーション**

製作： 株式会社 precog、一般社団法人チェルフィッチュ  
作・演出： 岡田利規

**『欲望の輪郭(仮)』**

製作： 国際交流基金アジアセンター、株式会社 precog  
台本・演出： 岡田利規  
原作： ウティット・ヘームムーン

<舞台公演> B-6-f



提供：KYOTO EXPERIMENT 事務局 ©Yoshikazu Inoue

古典と現代、日本とフランスの境を越え、歌舞伎の可能性を追求する演劇団体・木ノ下歌舞伎、ポンピドゥ・センター初見参！

### 現代演劇シリーズ—杉原邦生演出 木ノ下歌舞伎『勸進帳』

木ノ下歌舞伎は歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を拠点に2006年より活動を展開しています。

本作『勸進帳』は2010年の初演後、杉原邦生 [KUNIO] の演出・美術により、2016年に完全リクリエーション版として上演。監修・補綴の木ノ下裕一がその成果に対して平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞するなど、高い評価を得ました。一般的に「忠義の物語」とされる勸進帳を、〈関所＝境界線〉として読み解き、現代社会を取り巻くあらゆる〈境界線〉が交錯する、多層的なドラマへと再構築した木ノ下歌舞伎の代表作です。

期間：	2018年秋
会場：	ポンピドゥ・センター
主催：	国際交流基金、ポンピドゥ・センター
共催：	東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
監修・補綴：	木ノ下裕一
演出・美術：	杉原邦生
出演：	リー5世、坂口涼太郎、高山のえみ、岡野康弘、亀島一徳、重岡漠、大柿友哉
音楽：	Taichi Master
振付：	木皮 成
照明：	伊藤泰行
音響：	星野大輔
衣裳：	藤谷香子
演出助手：	岩澤哲野
舞台監督：	大鹿展明
制作：	本郷麻衣

<舞台公演> B-7



宮本亜門演出、観世流能楽師出演による能楽と3D映像を初めて融合させた新たな日本文化の誕生！

**宮本亜門演出 能×3D映像『YUGEN 幽玄』**

宮本亜門演出、観世流能楽師出演による能楽と3D映像作品を融合させた新たな舞台芸術がパリで繰り広げられます。本公演では、能の演目である『石橋』と『羽衣』をベースに3D映像で日本の自然を表現し、美しい日本の幽玄の世界を舞台上に再現します。観客は特別な3Dメガネを着用し、3D映像と能による美のコラボレーションを楽しんでいただけます。日本の伝統芸能と最新テクノロジーの融合による新たな日本文化の創出の瞬間を体感できる作品です。

期間： 2018年9月  
会場： 調整中  
主催： 国際交流基金  
協力： 一般財団法人観世文庫

<舞台公演> B-8



Kader Attou©CCN La Rochelle



Jann Gallois©Jody Carter



Tokyo Gegegay©Arisak

日仏の注目アーティストが共に創り出すヒップホップ・ダンスの最前線。

### 日仏ダンス共同制作 トリプルビル

日仏のヒップホップ・アーティストを交流させるこのプロジェクトは、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018（予定）のディレクターを務めるフランス人振付家ドミニク・エルヴュのアイデアから生まれました。高い芸術性を備えたヒップホップ・ダンスで注目されているカデル・アトゥと近年頭角を現している若手振付家ジャンヌ・ガロワが5人の日本人ダンサーをオーディションで選出し、共に新作に挑みます。さらにフランスでは初公演となる MIKEY 率いる東京ゲゲゲイが加わり、三者三様の感性とアプローチによって生み出される作品は、ヒップホップ・ダンスのイメージを全く一新するものになるでしょう。これらの作品は横浜で創作、上演された後、国立シャイヨー劇場、リヨン・ダンスビエンナーレなどフランス国内各地をツアーします。

- 期間： 2018 年秋
- 会場： 国立シャイヨー劇場、リヨン・ダンスビエンナーレ 他
- 主催： 国際交流基金、リヨン・ダンスビエンナーレ、国立シャイヨー劇場、ラ・ロシェル国立振付センター
- 共同製作： リヨン・ダンスビエンナーレ、国立シャイヨー劇場、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018（予定）、ラ・ロシェル国立振付センター
- 制作協力： パルコ
- 振付： カデル・アトゥ（新作、タイトル未定）、ジャンヌ・ガロワ（新作『リバーズ』）、東京ゲゲゲイ（『東京ゲゲゲイ女学院』）

<舞台公演> B-9



国立シヤイヨー劇場直々のラブコールを受けて、野田秀樹 3 度目となるパリ公演が実現！

### **野田秀樹 演出作品**

2014 年春『THE BEE』、2015 年冬『エッグ』。これまで 2 度のパリ公演を成功させた野田秀樹。  
国立シヤイヨー劇場直々のラブコールを受けて、来秋、野田にとって 3 度目となるパリ公演が実現します。

期間： 2018 年 9 月 28 日（金）～ 10 月 3 日（水）  
会場： 国立シヤイヨー劇場  
主催： 国際交流基金、国立シヤイヨー劇場、  
東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、NODA・MAP

<舞台公演> B-10



©Takuya Matsumi

伝説の前衛舞踊家に寄せる全身全霊の讃歌。

**コンテンポラリーダンスー川口隆夫『大野一雄について』**

ダンスアーカイヴの活用から生まれた作品『大野一雄について』は、舞踊シーンに独自の軌跡を描きつつ、上昇飛行を続けています。大野一雄の『ラ・アルヘンチーナ頌』(1977)、『わたしのお母さん』(1981)、『死海』(1985)のビデオを分析し、舞踏家の微細な動きから、観客の咳払いやビデオ収録の操作ミスまで「完全コピー」する一方、大野一雄の前衛映画『O氏の肖像』(1969)を大胆に再解釈してパフォーマンス化する力強いコンセプトは、「オリジナルとは何か」「振付とは何か」という問いを投げかけ、「大野一雄」を知る、知らないを越えて、世界の観客を魅了してきました。

本作は、2016年のニューヨーク公演においてベッシー賞ファイナリストにノミネートされました。

期間： 2018年10月2日(火)～5日(金)  
 会場： パリ市立劇場 エスパス・ピエール・カルダン  
 主催： 国際交流基金、パリ市立劇場  
 共催： フェスティバル・ドートンヌ・パリ  
 コンセプト・演出・出演： 川口隆夫  
 振付： 土方巽、大野一雄  
 ドラマトゥルク・サウンド・映像： 飯名尚人  
 照明・舞台監督： 溝端俊夫  
 衣装： 北村教子  
 ビデオ出演： 大野慶人

<舞台公演> B-11-a



©国立文楽劇場



©国立文楽劇場

※写真は実際の演目と異なります

ユネスコ無形文化遺産に登録されている舞台芸術・人形浄瑠璃文楽。  
太夫、三味線、人形の三業が一体となって日本の情（じょう）の世界を表現します。

## 文楽

期間： 2018年10月12日（金）～ 13日（土）  
会場： シテ・ドラ・ミュージック  
主催： 国際交流基金、フィルハーモニー・ド・パリ  
協力： 株式会社 KAJIMOTO  
制作協力： 公益財団法人文楽協会

<舞台公演> B-11-b



©Jérémie Souteyrat



©Isamu UEHARA (Sun-Ad)

雅楽の演奏グループとして世界各国で公演をしている伶楽舎。  
今回の公演ではダンサー森山開次が現代雅楽作品を舞います。

### 雅楽アンサンブル 伶楽舎

伶楽舎は雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や現代作品の演奏に積極的に取り組み、国内外で幅広い活動をしており、現代作曲家へも定期的に古典雅楽様式の新作を委嘱しています。今回の公演ではそんな伶楽舎ならではのプログラムが組まれています。『露台乱舞』は平安時代から室町時代にかけて宮中で行われていた音楽行事を、音楽監督の芝祐靖が構成、復曲させたもので、さまざまな歌謡と舞で構成された酒宴もあり、雅楽の初心者にとっても親しみやすい内容の作品です。また 2003 年に伶楽舎が委嘱し初演された権代敦彦の『彼岸の時間』では、今回初めて世界的コンテンポラリー・ダンサー、森山開次との共演が実現します。

期間： 2018年10月13日（土）  
会場： フィルハーモニー・ド・パリ  
主催： 国際交流基金、フィルハーモニー・ド・パリ  
協力： 株式会社 KAJIMOTO  
出演： 伶楽舎、森山開次 他

<舞台公演> B-11- c



©M.Tominaga



©S.Oguma

世界初の太鼓独奏者・林英哲と彼が育て上げた実力派太鼓ユニット・英哲風雲の会による  
伝統と革新が織りなすライブパフォーマンスです。

### 和太鼓 林英哲と英哲風雲の会

林英哲は 1982 年に太鼓独奏者として活動を開始、現在の舞台パフォーマンスとしての「日本の太鼓」の礎づくりに貢献し、ロック、ジャズ、クラシック、現代音楽、民族音楽など、様々なジャンルの演奏家らと垣根を越えた音楽作りをし、和太鼓の伝統とは一線を画した独自の太鼓の表現を築き上げてきました。美術家の生涯をモチーフにしたシリーズなど、太鼓によるオリジナルな舞台作品を多く生み出し、独創的な演奏家として国内外で広く活動しています。

英哲風雲の会は日本各地で活躍する若手太鼓奏者の中から、林英哲の音楽に共鳴する実力者で構成される次世代を担う俊英たちの集まりです。単独で国内外の公演も行い、その圧倒的な迫力とライブパフォーマンスは大反響を呼んでいます。

革新的な表現を兼ね備え、太鼓の響きを身体中で体感すると同時に、和の伝統的な演出も垣間見ることができる彼らのパフォーマンスに、フランスの聴衆も大いに盛り上がることでしょう。

期間： 2018 年 10 月 14 日（日）  
会場： フィルハーモニー・ド・パリ  
主催： 国際交流基金、フィルハーモニー・ド・パリ  
協力： 株式会社 KAJIMOTO  
出演： 林英哲、英哲風雲の会

<舞台公演> B-11-d



『藤娘』



『連獅子』



『八島』

©Tomoko Ogawa

400年の伝統を有する日本舞踊。

人間国宝・井上八千代をはじめ、伝統を受け継ぐ現代を代表する舞踊家が、日本舞踊の真髄を披露します。

### 日本舞踊 井上八千代、富山清琴等出演

日本舞踊は約400年にわたって受け継がれてきた日本の伝統舞踊です。日本舞踊ならではの独特のリズムから生まれる身体の動きは、時に繊細、時に躍動的で観る者を魅了します。今回の公演では日本舞踊の代表的な演目である『藤娘』、『連獅子』、『八島』を上演します。

『藤娘』は、藤の花の精が踊るといふ幻想的な作品で、美しい衣裳も見どころです。それとは対照的に『連獅子』は、獅子に扮した二人の舞踊家が勇壮に踊るダイナミックな演目です。そして『八島』は、人間国宝・井上八千代が迫真の舞を披露します。日本における舞の多彩な演目を、一流の舞踊家、演奏者による最高の舞台でお届けします。

- 期間： 2018年10月14日（日）～ 15日（月）  
 会場： シテ・ド・ラ・ミュージック  
 主催： 国際交流基金、フィルハーモニー・ド・パリ  
 協力： 株式会社 KAJIMOTO  
 出演： 日本舞踊家 井上八千代、中村梅彌、花柳基、花柳源九郎、坂東はつ花、五條詠絹  
 演奏家 富山清琴、杵屋勝四郎、杵屋栄八郎、藤舎呂英

<舞台公演> B-12



©Théo Touvet

踊ることで世界は救えるのか？！

フランスで活躍する振付家・ダンサー伊藤郁女と多彩な活動で注目を集める森山未来の新作デュオ。

### コンテンポラリーダンスー伊藤郁女×森山未来

国際的に活躍する振付家・ダンサーであり、メゾン・デ・ザール・ドゥ・クレティユのアソシエイト・アーティストである伊藤郁女と、俳優として、またダンサーとしてめざましい活躍を見せる森山未来による新作デュオ。2人はまるで自分たちが「異星人」であるかのような違和感を共有し、この世界と奇妙な距離感をもって生きています。それは三島由紀夫のSF小説『美しい星』の登場人物が感じているものとよく似ています。この小説から伊藤が得た着想と、藤井颯太郎に依頼したシナリオにもとづき、本作を構想。2人のダンサーの身体を通して、温かな関係性が生まれたかと思うと次の瞬間には冷淡になることもできる、人間同士の距離を考えます。

期間： 2018年10月25日（木）～ 27日（土）  
会場： メゾン・デザール・ド・クレティユ  
主催： 国際交流基金、メゾン・デザール・ド・クレティユ  
振付・出演： 伊藤郁女、森山未来  
制作： アメラ・アリホジック（カンパニー姫）

<舞台公演> B-13



©Ryota Atarashi

世界最高峰のフェスティバルであるアヴィニオン演劇祭で大絶賛された『マハーバーラタ』再びフランスへ！

### 宮城聡演出『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』

インドの国民的大叙事詩の中で最も美しく壮大な愛の物語を、絵巻物のように壮麗なビジュアルで描く SPAC 版『マハーバーラタ』。2014年7月、フランスで開催されている世界最高峰の演劇フェスティバルである「アヴィニオン演劇祭」で約1,000席の会場を連日満席にし、スタンディング・オベーションを巻き起こしました。その後も各地で上演を重ね、進化を続ける本作が、「ジャポニスム 2018」に登場します。客席を360度取り囲む“リング状”の舞台、重厚な語りと動き、そして俳優による生演奏—。2017年、『アンティゴネ』で同演劇祭のオープニングを飾り、勢いに乗る宮城聡と SPAC が贈る祝祭音楽劇の頂点です。

期間： 2018年11月20日（火）～ 25日（日）  
会場： ラ・ヴィレット  
主催： 国際交流基金、ラ・ヴィレット  
共催： SPAC-静岡県舞台芸術センター  
演出： 宮城聡  
台本： 久保田梓美  
音楽： 棚川寛子  
空間構成： 木津潤平  
出演： SPAC

<舞台公演> B-14



『葵上』(シテ・浅見真州) ©Yoshihiro Maejima

野村萬、梅若玄祥、浅見真州ら現代一流の能楽師が本格的能舞台で  
日本文化の精髓である能楽を披露する公演です。

### 能楽 野村萬、梅若玄祥、浅見真州等出演

野村萬、梅若玄祥、浅見真州ら現代一流の能楽師の出演により毎年東京の国立能楽堂で開催している「日経能楽鑑賞会」のパリ版ともいべき公演です。能楽の原点として別格に扱われる『翁』に始まり、恋をめぐる怨念が渦巻く『葵上』、優艶な敗者・平清経の悲しみを描く『清経 恋之音取』、夫の留守を守る妻の恋慕から絶望へ至る『砧』と、能の傑作が上演されます。狂言では野村萬らによる『木六駄』、『二人袴』が上演されます。屋根・柱・橋掛かり・鏡の間付きの本格的能舞台、能装束、構成などすべてにおいて、これまでの能楽海外公演ではなし得なかったレベルの公演がパリで実現します。

※曲目はいずれも予定

期間： 2019年2月6日(水)～10日(日)  
会場： シテ・ド・ラ・ミュージック  
主催： 国際交流基金、日本経済新聞社、フィルハーモニー・ド・パリ  
協力： 株式会社 KAJIMOTO  
出演： 野村萬、梅若玄祥、浅見真州 他

<舞台公演> B-15



撮影：渡部孝弘／提供：ホリプロ ©Takahiro Watanabe/HoriPro Inc

村上春樹×蜷川幸雄。世界が注目する奇跡のコラボレーション、パリへ。

### 蜷川幸雄演出『海辺のカフカ』

ニューヨーク・タイムズ「年間ベストブック10冊」や、世界幻想文学大賞に選ばれた村上春樹の傑作長編小説『海辺のカフカ』を蜷川幸雄が演出。原作の世界観を世界のニナガワならではの美しくも壮大なスケールで舞台化し、大きな話題を呼びました。二大巨頭による話題作、パリ初演です。

期間： 2019年2月15日（金）～ 23日（土）  
会場： 国立コリヌ劇場  
主催： 国際交流基金、国立コリヌ劇場  
共催： ホリプロ  
企画制作： ホリプロ、TBS  
協力： 新潮社  
原作： 村上春樹『海辺のカフカ』（新潮文庫刊）  
脚本： フランク・ギャラティ  
演出： 蜷川幸雄  
キャスト： 寺島しのぶ、古畑新之、木場勝己 他

<舞台公演> B-16-a



©Naoko Takeuchi

日本の漫画、アニメ、ゲームが原作の 2.5 次元ミュージカル、いよいよヨーロッパへ！  
世界中で人気が高い「美少女戦士セーラームーン」を上演。

## 2.5 次元ミュージカル パフォーマンスショー『美少女戦士セーラームーン』

漫画「美少女戦士セーラームーン」は1991年に講談社の少女漫画雑誌「なかよし」で連載が開始され、その人気は少女を中心に大人の女性、男性の間まで広がり、従来の枠を超えたブーム、社会現象となりました。

そして1993年、初めてミュージカル化され、2013年、「美少女戦士セーラームーン20周年プロジェクト」の一環として8年ぶりに、出演者が全て女性という新しい試みのもとに新作を上演。2014年夏の公演に続き、2015年1月にはミュージカル「美少女戦士セーラームーン」史上初の中国・上海公演を開催し、現地でも大好評を博しました。

今ではミュージカルを観るために多くの外国人も日本に訪れるほど、2.5次元ミュージカルを代表するビッグタイトルとなっています。また、2017年にはアメリカヒューストンでのアニメマツリにてショーを行い、1万人を動員。

現在「美少女戦士セーラームーン25周年プロジェクト」として様々なプロジェクトが進行しており、2018年パリでの公演は、世界中で愛される原作の魅力を活かした新たなパフォーマンスショーとして上演を予定しています。

期間： 調整中  
会場： 調整中  
原作： 「美少女戦士セーラームーン」武内直子（講談社刊）

<舞台公演> B-16-b



©ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会

名だたる刀剣が戦士の姿になった“刀剣男士”を育成する超人気 PC ブラウザ・スマホアプリゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」(DMM GAMES/Nitroplus) を原案とする、ミュージカル『刀剣乱舞』

## 2.5 次元ミュージカル ミュージカル『刀剣乱舞』

PC ブラウザ・スマホアプリゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」を原案としたミュージカル作品。2015 年 10 月の初演より、まるでゲームの中から出てきたようなキャラクタービジュアルの再現度はもちろんのこと、重厚な歴史ドラマを描くミュージカルと、華やかなライブでの二部構成がファンの心をつかみ 2.5 次元ミュージカルの人気作品となりました。

2016 年に CD デビューを果たすと、1st シングルが音楽チャートで 1 位を獲得。その後もシリーズは続き、海外公演や「真剣乱舞祭」と銘打ったライブも行われている他、厳島神社にて世界遺産登録 20 周年記念奉納行事として特別公演を行うなど、革新的な試みを次々と成功させ、国内のみならず海外でも人気を博し、2.5 次元ミュージカルの新たな可能性に挑戦し続けています。

期間： 調整中  
会場： 調整中  
主催： ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会  
(ネルケプランニング ニトロプラス DMM.com ユークリッド・エージェンシー)  
原案： 「刀剣乱舞-ONLINE-」より (DMM GAMES/Nitroplus)

<舞台公演> B-17



illustration by KEI ©Crypton Future Media, INC.

日本から世界へと「創作の輪」を広げ続けるバーチャル・シンガー初音ミク。  
待望のヨーロッパ初上陸となるコンサートを開催！

### 初音ミクコンサート（仮）

初音ミクは 2007 年にクリプトン・フューチャー・メディア株式会社から発売された歌声合成ソフトウェア。このソフト一つでメロディーに歌詞を乗せた歌を作ることが出来るため、多くの人が初音ミクを採用しました。

そうして出来た歌は様々な創作意欲を沸き立たせ、イラストや動画、ダンスなどの活動に繋がり、初音ミクを中心とした「創作の輪」として広がり続けています。

現在、初音ミクはインターネット内に留まらず、現実世界へと飛び出し、バーチャル・シンガーとして生身のミュージシャンの演奏に合わせてステージで歌うようになり、日本だけでなくアジアや北米など世界各国で多くの観客を魅了しています。

ヨーロッパでは第一弾となるコンサートを「ジャポニスム 2018」の一環としてフランスで開催！

期間： 調整中  
会場： 調整中  
主催： 国際交流基金  
協力： クリプトン・フューチャー・メディア株式会社  
出演： 初音ミク 他

<映像> C-1-a



フランスが愛する日本人映画監督・河瀬直美の新作『Vision』を、「ジャポニスム 2018」公式オープニング事業として特別上映。

### 河瀬直美監督特集 2018 年新作発表特別上映

『萌の朱雀』（1997年）、『殯の森』（2007年）、『光』（2017年）など、世界を魅了する作品を創出する映画監督、河瀬直美。カンヌ国際映画祭グランプリをはじめとする数々の賞を受け、また日本人映画監督として初めて同映画祭の審査員に選ばれるなど、世界において、とりわけフランスで、高く評価されています。

その河瀬監督による 2018 年の新作『Vision』を、「ジャポニスム 2018」公式オープニングを記念し、特別にお披露目上映します。2017 年秋現在河瀬監督の故郷・奈良を舞台に撮影進行中の本作は、世界三大映画祭すべてで女優賞を獲得したフランスの名女優・ジュリエット・ビノシュと、日本のみならず世界を舞台に活躍する俳優・永瀬正敏がダブル主演を務める日仏合作。フランスの女性エッセイストが日本を旅し、神秘の森、吉野の山々を守る山守の日本人男性と、言葉や文化の壁を超えて心を通わせていく物語です。

期間:	2018 年 7 月
会場:	調整中
主催:	国際交流基金 他
監督:	河瀬直美
出演:	ジュリエット・ビノシュ、永瀬正敏 他

<映像> C-1-b



photographed by LESLIE KEE

近年いよいよ脂が乗って活躍を続け、「ジャポニスム2018」公式オープニングでの新作特別上映が予定される河瀬直美監督の半生を、特別展と回顧上映会で追います。

### 河瀬直美監督特集 特別展・特集上映

「ジャポニスム2018」公式オープニングで新作『Vision』の特別上映が予定されている映画監督、河瀬直美の半生を、特別展と映画上映会で描きます。現代美術の殿堂、ポンピドゥ・センターからの熱い要望で企画が実現しました。

特別展では、「生命」「自然」「世界」「家族」といった、河瀬映画に共通するテーマを、写真、インスタレーション、映像などさまざまな表現で紹介します。一方特集上映においては、初期の短篇から最新作まで、カンヌ国際映画祭受賞作品を含めた映画作品約35本を一挙に上映します。

期間： 2018年11月23日（金）～ 2019年1月6日（日）  
会場： ポンピドゥ・センター  
主催： 国際交流基金、ポンピドゥ・センター 他

<映像> C-2



上段左より『リップヴァンウィンクルの花嫁』©RVW Film Partners 『トイレのピエタ』©2015「トイレのピエタ」製作委員会 『東京物語』©1953/2017 SHOCHIKU Co., Ltd.  
 下段左より『瀧の白糸』©マツダ映画社 『花筐／HANAGATAMI』©唐津映画製作委員会／PSC 2017 『0.5mm』©2013 ZERO PICTURES / REALPRODUCTS  
 上映候補作品の一部です。

日本映画の100年の歴史を約100本の映画で紹介します。

1920年代の作品から2018年の最新作まで、日仏の専門家が共に選ぶ珠玉のラインナップです。

## 日本映画の100年

1920年代から2018年まで日本映画の100年の歴史を、日仏の専門家が共同で選ぶ約100本の映画で辿ります。上映作品は2017年秋現在選定中。諸外国の中では比較的日本映画が親しまれているフランスでもまだ知られていない作品や監督にも焦点を当てたラインナップを、3部構成で紹介します。

皮切りの第一部（2018年9月～10月）では、フランス映画文化の中心拠点、シネマテーク・フランセーズにおいて、1920～1940年代の映画約25本を上映。日本映画の発芽期から黄金期が始まる時代の作品をカバーします。あわせて、サイレント映画に命を吹き込む活動弁士と楽士による公演も計画しています。

第二部（2018年11月～2019年1月）は、パリ日本文化会館に場を移し、「日本映画再発見」と銘打って、第二次世界大戦後から2000年代までの、厳選された映画50本を、2セクションに分けて上映。第1セクションでは、フランスでまだ知られていない名監督の作品とよく知られている監督の知られざる傑作、30本程度を紹介します。一方第2セクションは、日本映画史上極めて重要な、誰もが知る作品を、最新技術で生まれ変わったデジタル修復版で再発見する機会を提供します。国際交流基金も修復に協力した作品を含め、約20本の作品が集中上映されます。また、上映作品に出演している往年の名俳優のトークやデジタル修復関連シンポジウムも計画中です。

第三部（2019年2月）では再度シネマテークに戻り、今活躍中の監督の作品を紹介します。2018年に公開される最新作も数本含め、現在の日本映画界を牽引する巨匠から若手監督までの作品約25本で、日本映画の今を伝えます。上映作品の監督たち、出演俳優・女優がパリの映画ファンと交流する、楽しい関連企画も予定しています。

なお、事業の一部は、トゥールーズやリヨン等フランス国内の別都市にも展開します。

期間： 2018年9月 ～ 2019年2月  
 会場： シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館 他  
 主催： 国際交流基金、シネマテーク・フランセーズ 他

<映像> C-3

フランスのテレビが日本を集中的に取り上げる特別月間。  
ドキュメンタリー、映画、アニメ他日本のコンテンツを集中的に放送します。

### テレビ日本月間

文化・教養専門チャンネル ARTE 他、フランスのテレビ放送局において、日本をテーマとする特別月間・週間が企画されます。日仏共同で製作したドキュメンタリーや紀行番組、また日本の優れた映画、アニメ、ドラマ等、さまざまなジャンルの日本関連テレビ番組を集中的に放送します。幅広い層に向けて、日本人の生きた暮らしや社会、日本で育まれてきた文化芸術、日本人の考え方や感じ方を伝える企画です。特別月間の中での放送に向け、歴史や紀行、人々の暮らしを扱ったスケールの大きな番組の日仏共同制作も進行しています。  
優れた番組放送を通じ、さまざまな角度から、日本の多彩な顔を楽しく紹介します。  
なお、「ジャポニスム 2018」公式企画の中継放送や録画放送も、一部組み込むことを検討しています。

期間： 2018 年秋  
会場： (テレビ放送)  
主催： 国際交流基金 他

<映像> C-4

13 回目を迎える KINOTAYO 現代日本映画祭。

「ジャポニスム 2018」では、例年にも増して魅力的なプログラムを紹介します。

### **KINOTAYO 現代日本映画祭**

フランス最大の日本映画祭として、2006 年の創設以来、多くの人々が毎年楽しみに待ち望んでいる KINOTAYO 現代日本映画祭。フランスでの公開前の最新作を含め、幅広いジャンルの日本の現代映画を数多くフランスに紹介してきました。第 13 回映画祭は、「ジャポニスム 2018」の一環として、例年にも増して魅力的なプログラムをご用意します。

期間： 2019 年 1 月 17 日（木）～ 26 日（土）  
会場： パリ日本文化会館、クラブ・ドゥ・レトワール・シネマ 他  
主催： 国際交流基金、KINOTAYO 映画祭実行委員会 他

<映像> C-5



©2015「FOUJITA」製作委員会

藤田嗣治展開催に合わせ、小栗康平監督の最新映画『FOUJITA』（2015年）をフランスで初めて上映します。

### 『FOUJITA』上映会

「ジャポニスム 2018」公式企画として、2019年1月から3月までパリ日本文化会館で開催される藤田嗣治展に合わせ、小栗康平監督による日仏合作映画『FOUJITA』（2015年）を上映します。

フランス・ジョルジュ・サドゥール賞を日本人として初めて受賞した『伽椰子のために』（1984年）や、カンヌ国際映画祭審査員特別グランプリ・国際批評家連盟賞ダブル受賞で話題になった『死の棘』（1990年）で知られる小栗康平監督が、10年ぶりに手がけた最新作『FOUJITA』。静謐な映像美溢れるこの日仏合作映画が、フランスにおいて初めて紹介されます。

展覧会と合わせ、日仏の間に生きたフジタの未だ知られざる世界を紹介し、近代とは何か、改めて問いかけます。

期間： 2019年2月  
会場： パリ日本文化会館  
主催： 国際交流基金  
監督： 小栗康平  
出演： オダギリジョー 他

<生活文化> D-1-a



写真はイメージです

フランスのシェフ、調理師を志す学生から一般・子供まで、さまざまな層を対象に、日本食文化を学ぶためのセミナー・ワークショップを連続開催。理論と実践で日本の食の魅力を伝えます。

### 「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ

「ジャポニスム 2018」の会期を通じ、日本の食の魅力と楽しみ方を伝えるセミナー・ワークショップ・シリーズを開催します。各対象層に合わせたテーマを回ごとに設定して、日本の専門家を講師として講義と調理実習を行います（コーディネーション：相原由美子（予定））。和食が既によく知られているフランスにおいて、より深く、より広く、日本食を学び、理解し、堪能してもらうための試みです。

フランスでシェフとして活躍している人や調理師になるための専門の勉強をしている学生を対象とした回では、フランス料理にも応用できる日本食材、出汁やうまみ、日本料理特有の調理技術、日本茶等をテーマ候補として検討しています。また、一般の人々や子供を対象とした回では、「みたらし」、「おにぎらず」、「押し寿司」など、フランスで入手が可能な材料で、自宅で気軽に作れるメニューを取り上げる予定です。

本プロジェクトの一部はパリ以外への都市・地方での開催も検討しています。

時期： 2018年7月～2019年2月（会期中、数回実施予定）  
 会場： パリ日本文化会館、パリ市内調理師養成専門学校 他  
 主催： 国際交流基金 他

<生活文化> D-1-b



写真はイメージです

パリ市内のレストラン、カフェ、ワインバーの協力を得て、街中で日本の食や日本酒、日本茶を味わい楽しむ機会を設けます。

### 「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ

パリ市内のレストラン、カフェ、ワインバー等の協力を得、日本酒をはじめとする日本の「味わい」に触れて、楽しんでもらう機会をパリのみなさんに提供して、「ジャポニスム 2018」を広く盛り上げる参加型企画を準備しています。

たとえば、パリ市内のさまざまなジャンルの料理店が日本酒蔵元とそれぞれタッグを組み、各銘柄と相性の合うメニューやアール・ドゥ・フランスを考案して、その日本酒とともにお客様に提供する特別週間を、毎秋パリで開催される日本酒紹介イベント Salon du Saké のプレ企画として計画中です（コーディネーション：関口涼子）。そのほか、ワインバーに通うワイン愛好家に日本酒の味わいを発見してもらおうデギュステーション企画、カフェやレストランでの日本茶お試し月間等の企画の実施なども検討しています。

時期： 2018 年秋  
 会場： パリ市内レストラン 他  
 主催： 国際交流基金 他

<生活文化> D-1-c



写真はイメージです

フランスでも人気の高い日本の食。その味覚を楽しむだけでなく、アートと食の関わり、地方文化としての郷土食、学際的な食研究といった、様々な切り口から食の本質に迫り、日仏が共に考えるきっかけ作りをします。

### 「日本の食と文化を考える」シリーズ

日本の食文化に多角的、学術的にアプローチし、味わいを楽しみつつ、その魅力の本質について日仏共同で考え、話し合います。

プロジェクト第1弾は、ポンピドゥ・センター“Extra Festival!”参加企画「亡霊の饗宴」（仮称）。デザイン、文学、パフォーマンス等諸分野で活躍中の日仏芸術家・専門家たちが、それぞれの切り口から議論を繋げ、各議論に着想を得たメニューを日本人シェフが創作、披露するユニークな分野横断的文化事業です。ポンピドゥ・センターと詩人・翻訳家の関口涼子がキュレーションします。

第2弾は、「ユネスコ・ジャパン・ウィーク 2018」で開催される「日本へのクリエイティブな旅展」特別企画の「日本のガストロノミー地方の食文化を中心として」。日本各地の郷土料理に焦点を当てて、シンポジウム、展示、デモンストレーションを通じて、和食文化、日本文化の幅と奥行きを総合的に考察します。

第3弾には、和食のユネスコ無形文化遺産登録、フランスにおける日本人シェフの目覚ましい活躍といった近年の動きを踏まえ、日本食の歴史と哲学、グローバル化等について、日仏で考察するシンポジウムの実施を検討しています。

時期： ①2018年9月7日（金）、②2018年10月15日（月）～19日（金）、③未定

会場： ①ポンピドゥ・センター、②国際連合教育科学文化機関（UNESCO）本部、③未定

主催： 国際交流基金

ポンピドゥ・センター（①）、日本へのクリエイティブな旅展実行委員会（②） 他

<生活文化> D-2

文学・俳句、歴史、美術、社会科学他様々な切り口から、日本とフランスの接触と交流の歩みや両国共通の課題への取り組みについて、日仏が共に考え、語り合う場を提供します。

**シンポジウム・講演シリーズ**

様々な催しがパリ中、フランス中で開催される「ジャポニスム 2018」の会期を通じ、日本とフランスの接触と交流の歩みや両国共通の課題への取り組みをテーマに、シンポジウムや講演、セミナーを実施します。回ごとに文学、俳句、歴史、美術、社会科学、自然科学と芸術等の切り口を設定し、「ジャポニスム 2018」に至る経緯と意義について日仏の専門家が共に考察し、語り合います。

時期： 2018年7月～2019年2月（会期中、数回実施予定）

会場： パリ日本文化会館 他

主催： 国際交流基金 他

<生活文化> D-3



©株式会社丸玉屋小勝煙火店

欧州最大の花火大会において、日本が誇る多彩な花火を打ち揚げます。

## 日本の花火

パリ西端に隣接するサン=クルー公園で毎年開催されるサン=クルー大花火大会は、2008年に始まった、欧州最大規模を誇る花火大会です。パリや近郊の多くの人たちが大会の日を楽しみにしており、毎年、公園内の特設有料席にも、自由に鑑賞できるセーヌ川河畔にも、たくさんの観客が集まります。

10周年記念大会となる2018年の大会では、2部構成の第1部のテーマとして「日本」が取り上げられることになりました。日本ならではの繊細かつダイナミックな花火を約25分間に亘って表情豊かに打ち揚げます。

今回の花火の製造と打ち揚げを手掛けるのは、創業100年以上を誇る老舗の2社、丸玉屋小勝煙火店と紅屋青木煙火店。伝統的な芸術玉、日本を代表するファッション・デザイナーによる、音楽に合わせたデザイン花火、圧巻のスターメイン等を交えて、フランス、欧州では見ることのできない日本の花火を披露します。

打ち揚げにあたってはそれぞれの特徴や見どころを解説するアナウンスも組み込み、日本の花火の魅力をわかりやすく伝えます。

時期： 2018年9月8日（土）  
会場： サン=クルー公園（サン=クルー市）<サン=クルー大花火大会>  
主催： 国際交流基金、ル・グラン・フ・サン=クルー、フェット・エ・フ  
花火製造・打揚： 丸玉屋小勝煙火店、紅屋青木煙火店

<生活文化> D-4

「ジャポニスム 2018」を記念し、パリの象徴的存在、エッフェル塔をライトアップします。

**エッフェル塔ライトアップ**

フランスと言えば誰もが思い浮かべるシンボルの一つ、エッフェル塔は、フランスで国家的な行事や国際的な催事があるたび、彩り豊かに光り輝いてきました。今回は、「ジャポニスム 2018」を記念して、日本の美をテーマに日本の照明デザイナーがライトアップします。

「ジャポニスム 2018」で紹介する、日本文化をめぐるさまざまな美しい事象や日本人の美意識を象徴するようなデザインを、パリのランドマークに映し出す、光のアートを予定しています。

時期： 2018年9月  
会場： エッフェル塔  
主催： 国際交流基金 他

<生活文化> D-5



伝統的工芸品産業振興協会提供

写真はイメージです

伝統工芸品の展示、職人による製作実演とワークショップ、講演、映像上映、シンポジウム等を通じ、日本のものづくりの原点、伝統工芸の匠の技を紹介します。

### 伝統工芸シリーズ

日本各地に伝わる伝統工芸こそ、日本のものづくりの原点です。その繊細なデザインと緻密なつくり、高い品質は、海外からも高い評価を受け続けてきました。「ジャポニスム 2018」においても、それぞれの土地に深く根ざし、長い時間をかけて受け継がれてきた、日本の匠の技を、工芸品の展示、職人による製作実演とワークショップ、講演、映像上映、シンポジウム等、多彩な企画で総合的に紹介します。

「ジャポニスム 2018」会期中計 3 回、各約 10 日間に亘り、それぞれ数品目の工芸品を取り上げて、その美しさと使いごちを伝えます。日本人がものを作ること、使うことについてどう考え、どう感じてきたか、ものに込められた日本各地の人々の思いや暮らしを紹介します。

事業の一部は、パリ以外の都市・地域への展開も予定しています。

時期： 2018 年 9 月、11 月、2019 年 2 月

会場： パリ日本文化会館、ESPACE DENSAN（Maison WA 内） 他

主催： 国際交流基金、伝統的工芸品産業振興協会、自治体国際化協会（CLAIR）

<生活文化> D-6



西村 恵学

禅に関わる書画・庭園・茶道などを取り上げ、映像上映や展示、坐禅会、写禅語体験、老師による講演を通じて禅の精神を伝えます。

### 禅文化週間

臨済宗黄檗宗連合各派合議所/禅文化研究所と協力し、禅の文化を多角的に紹介する「禅文化週間」を設けます。雲水（修行僧）の修行の様子や主たる禅文化である書画、庭園、茶道などを紹介する特別制作映像の上映や写真パネルの展示、坐禅の体験、毛筆で禅語を模写する「写禅語」を計画するほか、メイン企画として、禅の指導者である老師による講演を予定しています。

フランスの人々が禅の精神に体験的に触れることができる一週間を通じて、西欧諸国では「クール」と捉えられている「ZEN」本来の精神を伝え、茶道、いけばな、能など、多くの日本文化の源流とも言える禅への理解を深める機会を創出します。

時期： 2018年10月2日（火）～ 7日（日）  
会場： パリ市立劇場 エスパス・ピエール・カルダン、パリ日本文化会館 他  
主催： 国際交流基金、臨済宗黄檗宗連合各派合議所/禅文化研究所

## <生活文化> D-7

各地伝来の祭り・踊り、民俗芸能、生活文化を集中的に紹介し、まだフランスで十分には知られていない部分も含め、日本の各地域・地方に根ざした多様性豊かな文化を伝えます。

### 「地方の魅力」週間—祭りと文化

地方自治体等と連携し、日本各地で大切に守り伝えられてきた民俗芸能や、土地の人々に長く親しまれてきた生活文化を取り上げて集中的に紹介する特別週間を開催します。日本文化の多様性豊かな魅力に注目し、フランスでまだ知られざる日本を見つけてもらう機会とします。

平日 4 日間はまずパリ日本文化会館にて、いろいろな土地に伝わる、民俗芸能公演、工芸品製作実演やワークショップ、写真パネル等の展示、講演等を通じ、日本の中にいかに彩り豊かな地方文化が育まれているか、それぞれどういう歴史を持ち、どのように育まれた文化なのか、各地はそれらをいかに活用し、守り、継承していこうとしているのかを、楽しく伝えます。特別週間締めくくりの週末には、パリ市民憩いの場所、アクリマタシオン庭園で、各地伝来の祭りや踊りを、華やかなパレード形式で、またステージを使って披露します。見学に訪れる方々にも一緒に踊りに参加していただくことを期待しています。あわせて、同庭園内には、各地の「B 級グルメ」を紹介する屋台や、観光ブースの設置も予定しています。なお、紹介する地方や祭りは、2017 年秋現在、選定中です。

時期： 2018 年 10 月

会場： パリ日本文化会館、アクリマタシオン庭園

主催： 国際交流基金、日本政府観光局（JNTO）、自治体国際化協会（CLAIR）、地方自治体 他

## &lt;生活文化&gt; D-8



茶会、茶道具展示、講演会等を通じ、茶道の「和敬清寂」の精神を伝えます。

### 茶の湯

「ジャポニスム 2018」の会期を通じ、折に触れて茶の湯を紹介するさまざまな機会を設けることにより、人を敬い、和を大切に、物事に動じない、茶道の精神「和敬清寂」をパリの人々に伝えます。長年継続しているパリ日本文化会館での茶道体験講座や茶道教室に加え、「ジャポニスム 2018」に際しては特別に、パリ西南の日本庭園での茶会や、茶道具展示、講演会等を予定しています。

広く一般から参加者を募り、野点形式で行う茶会の会場となる日本庭園は、銀行家・実業家だったアルベール・カーン（1860年-1940年）が自邸を造り変えた美しい庭園の中にあります。二度に亘って日本を訪れ、日本文化を深く理解し、敬愛したと言われるカーンが造成した日本庭園がもととなっており、2018年夏にリニューアル・オープンが予定されています。庭園内の茶室「青楓庵」（1966年に裏千家第15代家元・千玄室大宗匠より寄贈）も修復されました。

見て、聴いて、体験することを通じて、「亭主」と「客」の間に生み出される人間的なぬくもりを体感し、日本の伝統文化を代表する茶の湯の美学を味わう機会をパリの人たちに提供します。

時期： 2018年10月、2019年2月 他  
会場： パリ日本文化会館、アルベール・カーン日本庭園、ギメ東洋美術館 他  
主催： 国際交流基金、裏千家

<生活文化> D-9



講道館提供

世界の柔道大国の日本とフランスが、一般青少年から柔道家までさまざまなレベルでの柔道交流を深めます。

## 柔道

世界の柔道大国である日本とフランスが、「心身の力を最も有効に使用し、己を完成し、世を補益する」（講道館柔道の創始者・嘉納治五郎師範の言葉）柔道の精神に基づき、さまざまなレベルで柔道を通じた交流を深めます。

日本から派遣するハイレベルの専門家によるフランスの柔道家向け特別講習会、柔道の道を志すフランスの青少年を対象とした稽古・講座、柔道経験のない児童たちを対象とした柔道初体験ワークショップ、また、柔道の将来や教育における柔道など両国共通の関心事項をテーマに語り合うシンポジウム等の実施を計画しています。

更に、毎年パリで開催される国際柔道大会「グランドスラム・パリ」の機会を活用し、柔道に関連する貴重な資料の展示等の実施も予定しています。

時期： 2018 年秋、冬  
会場： ル・グラン・ドーム（ヴィルボン＝シュル＝イヴェット市） 他  
主催： 国際交流基金、講道館 他

<生活文化> D-10



さまざまな流派がパリに会い、作品展示やデモンストレーションを通して、いけばなの真髄を多角的に紹介します。

### いけばな

四季折々の草花を愛で日々の彩とする日本伝統の文化、いけばなは、フランスでも多くの人々に愛好されています。

今回は、日本いけばな芸術協会といけばなインターナショナルの協力を得て、多種多様ないけばなの様式や技法を紹介します。パリ日本文化会館定例事業のいけばな教室・講座を「ジャポニスム2018」会期中も行いつつ、日本から各流派の家元をはじめとする専門家が渡仏し、展覧会、デモンストレーション・シンポジウム、ワークショップを行う特別週間を企画して、華道の奥深い世界を五感で体験する場を提供します。

フランスの参加者にとっては、花の美しさを観賞するだけでなく、日本文化の中で育まれてきた、自然を尊び、洞察し、あらゆる生命に美を見出そうとする考え方に触れられる機会となることでしょう。

また、「ジャポニスム2018」会期中、他の公式企画に合わせたいけばな作品の展示も予定しています。

時期： 2019年1月～2月

会場： パリ日本文化会館

主催： 国際交流基金、日本いけばな芸術協会、いけばなインターナショナル